

評価委員会総合評価

研究課題名：シームレスな気象予測の災害・交通・産業への応用に関する研究
評価委員

委員長：岩崎俊樹、中島映至

委員：木本昌秀、三枝信子、田中博、坪木和久、泊次郎

評価年月日：平成30年11月26日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

※ 評価委員より修正の必要ありと指摘された事項について、後日、事務局にて必要な修正を行い、平成31年3月に評価分科会として承認いただいた。

2. 総合所見

本研究は、温暖化影響評価及びこれに必要なモデルの高度化にとどまらず、気象データの利活用、気象予測データの気候変動適応への応用的利活用を目的とした、社会ニーズから気象知財の利用をバックキャスト的に掘り起こすものであり、気象研究所として初めて取り組む研究課題である。

気象情報の高度利用を目指すもので、適応法等の国の施策と深く関係しており、地域における温暖化対策の基盤的情報を提供すること等が期待される。適応法が成立したこともあり、国立環境研究所との協力を強化することは良い点である。

一方、社会ニーズに応えようとする姿勢は評価できるが、いずれの課題も始まったばかりであり、具体的な研究手法はあまり定まっていないため、試行錯誤が続くのではないかと思われる。社会ニーズに配慮しながら、研究グループ内で十分に議論し、他の研究課題を見据えつつ、研究の目標と対象範囲を明確化して、着実に研究を実施することが重要となってくるだろう。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について再検討・留意した上で進めて欲しい。

【再検討すべき事項】

- ・研究計画について、もう少し具体的に明記いただけないか。特に、副課題2と副課題3は、研究課題を明確化することが望ましい。

【留意すべき事項】

- ・関係部署の助けが必要であるため、課題代表者の権限を大きくする等、所としての体制作りを検討した上で進めていく必要があるだろう。
- ・副課題2と副課題3は、気象情報の産業利用や防災利用を目的としており、情報の受け手側の意見をよく聞く必要があるところが難しさである。
- ・本研究に、基礎研究指向の研究者が配置されても何をしてよいのかわからない状態になる可能性があるため、留意して研究を進めていただきたい。
- ・目的を達成するためのツールの開発について、組織的かつ気象庁の独自性が出るよう、留意して研究を進めていただきたい。
- ・積極的に利用者との交流を図り、データ提供の在り方などに留意して研究を進めていただきたい。